

審査員講評

表彰式における審査委員の講評を誌面の都合上、
要約してご紹介します。

内井昭蔵

建築家・滋賀県立大学教授



最近の近代建築にとってガラスは欠くべからざる素材だが、真の環境素材として捉え直すことが新しい建築デザインにとって非常に大切ではないかと思う。応募作品にも、ガラスの持つ透明感や平滑な面、光を透過するという視覚的な面での環境に対する提案はあったが、単にその特性、機能性に限らず、今後はリサイクリングも含めた利用の方法を提案していくことも必要ではないかと思う。提案部門金賞は、情報という目に見えないものをガラスを通じて表現し、環境と情報を結びつけるという提案であった。銀賞はプリミティブであるがガラス素材を用い、癒しの空間をつくるという案。銅賞も環境と人間との調和がテーマだったが、ガラスと地球環境問題とをうまく結びつけた提案があったらよかったと思った。

浅石 優

日本設計
第2建築設計群プロジェクト部長



提案部門は、ガラス質を生かした新しいコンセプトの建築を提案してほしいのだが、審査員をアツといわせるような提案はほとんどなかった。金賞はデジタルコミュニケーションを光によって視覚化した提案。銀賞はシンプルで美しい僕好みの作品。都市のスカイラインを望む均質な空間に存在する卵(ガラスのバスルーム)が洗練された都会のイメージを醸し出している。銅賞は水面下につくられた光をたたえたガラスブロックの橋で、「灯籠流し」に呼応したロマンティックで詩的な作品である。作品例部門でも、ガラス質の素材の使い方に関しての目新しさはなかったが、金賞は建築自体が照明器具という考え方で、ガラスブロックの白い光の壁と鉄骨フレームとの対比のきれいな作品である。

大江 匡

プランテック総合計画事務所代表



各作品はトランスポーテーション、トラフィック、トレース(軌跡、痕跡)、トランスフォーム(変化)など、tra-という接頭詞をもつキーワードで解釈できる。もともとガラスがもつトランスペアレント(透明性)なイメージに、情報性、映像性といったものがペアレントな部分をトランス(行き来)するという動的な意味が重ねられている。トランスという言葉には夢うつつ、昏睡という意味合いがあり、トランスペアレントの影に情報によるテレプレゼンス、高速移動など、ワープというイメージがあると考えた。ガラスの社会における意味、現代人の潜在的なイメージが透明感という部分以外に副次的な意味を生みだし、それが両部門の上位作品のキーワードとして現れ、非常に興味深い結果であった。

戸谷文隆

日本電気硝子常務取締役



今回の第6回空間デザイン・コンペティションには430点を超える多くの作品をご応募いただき、心から御礼申し上げます。クリスタルクレイを加えた5品種が対象の作品例部門では、小さいながらも斬新なデザインの作品が多く見受けられました。銅賞は、光によって真っ赤に輝くガラスブロックを使用した、従来にないアイデアが印象的でした。全体的に光との関わりの中でガラス質を生かした建築への提案が多く、光のすばらしさを最も引き出せる建材はガラスであると改めて認識した次第です。今回の作品における新しい試みは、潤いある都市空間の構築に貢献されていくものと確信しております。今後とも新製品および用途開発に取り組み、建築業界の発展のため尽力させていただきたく所存でございます。